

学校教育ではぐくまれる「学び」のイメージに関する考察 ～大学生のイメージ調査の試行的分析から～

A Study on the Image of Learning Formed In School Education

松永 由弥子
Yumiko MATSUNAGA

(平成26年10月7日受理)

本稿は、大学1年生の「学び」のイメージの分析から、学校教育ではぐくまれる学習観を考察し、その課題を明らかにしようとする試みである。改正教育基本法では、これからの生涯学習社会を見据え、生涯にわたって学ぶことができる人材、すなわち自主的に学ぶことの出来る人材の育成を強調しているが、実際に高等学校までの学校教育において、そのような教育は行われているのであろうか。その現状の一端を、高等学校までの教育を修了したばかりの大学1年生が抱く「学び」のイメージを手がかりに明らかにしたいと考えた。

生涯学習社会においては、学校教育は教育制度のすべてを表すのではなく、生涯学習を支える一分野ととらえられ、生涯学習の基礎を培う役割を担っていると捉えられる。特にその基礎の中でも、教育基本法第6条でも挙げられている自主的、主体的に学習に取り組む意欲・態度の育成が重視されているとみることができる。これらの方向性が具体化されている学習指導要領においても、高等学校の場合には第1章総則に主体的に学習に取り組む態度の育成に関わる記述がある。

一方で、生涯学習社会にける「学び」とは、学習の定義などから、(1)意識、考え方、行動の仕方が変化したか、変化しようとしているか、(2)生活や能力の向上や充実を目指して行われているか、(3)自発的、主体的に取り組まれているか、(4)学習内容や方法が多岐にわたり、かついろいろな活動や体験を含むことを想定しているか、の4つの特徴からなるといえる。この4つの特徴から大学生の「学び」のイメージを分析した結果、「知識」を学ぶイメージ、「自分から」「知りたいこと」を学ぶイメージと同時に、「聞く」「教えてもらう」イメージでもあること、「机に向かう」イメージも多く、従来の学校教育のイメージに重なる部分も多かった。また、これらの傾向を前述の学校教育法第30条の2、いわゆる「生きる力」の内容と照らし合わせてみると、「知識」を学ぶイメージは多く、学校では、児童・生徒が主体的に取り組む学習が行われている一方で、やはり児童・生徒が受け身がちな一方的な知識伝達型の学習が存在すると予想できた。現時点での学校教育は、生涯にわたって学ぶために必要な自主的、主体的に学習に取り組む意欲・態度を育成するような教育も行われてはいるものの、まだ十分ではない現状を推測することができた。

1. はじめに

本稿は、大学1年生の「学び」のイメージの分析から、学校教育ではぐくまれる学習観

を考察し、その課題を明らかにしようとする試みである。改正教育基本法では、第3条で生涯学習の理念が規定され、第6条では学校教育について、これからの生涯学習社会を見据え、生涯にわたって学ぶことができる人材、すなわち自主的に学ぶことの出来る人材の育成を強調しているが、実際に高等学校までの学校教育において、そのような教育は行われているのであろうか。その現状の一端を、高等学校までの教育を修了したばかりの大学1年生が抱く「学び」のイメージを手がかりに明らかにしたいと考えた。

2. 生涯学習社会における学校教育の役割

平成18年に改定されて教育基本法では、「第1章 教育の目的及び理念」において生涯学習の理念を以下のように規定している。

(生涯学習の理念) 第3条 国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

さらに、上記第3条を含んだ第1章の目的や理念のもとに、「第2章 教育の実施に関する基本」において、次のように学校教育が規定されている。

(学校教育) 第6条 法律に定める学校は、公の性質を有するものであって、国、地方公共団体及び法律に定める法人のみが、これを設置することができる。

2 前項の学校においては、教育の目標が達成されるよう、教育を受ける者の心身の発達に応じて、体系的な教育が組織的に行われなければならない。この場合に、教育を受ける者が、学校生活を営む上で必要な規律を重んずるとともに、自ら進んで学習に取り組む意欲を高めることを重視して行われなければならない。

また、教育基本法を上位法として位置づけた学校教育法においては、第30条では以下のようなことが述べられている。

第30条 小学校における教育は、前条に規定する目的を実現するために必要な程度において第21条各号に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

2 前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

この条文のうち、第2項に関しては、中学校を規定する条文の第49条、高等学校を規定する条文の第62条において、それぞれの学校に読み替えて準用することとなっており、小学校・中学校・高等学校を通して、生涯にわたり学習する基盤が培われるようにすること

がうたわれている。そして、その基盤とされる力が、「基礎的な知識及び技能」「これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力」「主体的に学習に取り組む態度」で、近年では一般的にそれらを総称して「生きる力」と言っている。

これらの法律をみると、学校教育は教育制度のすべてを表すのではなく、生涯学習を支える一分野ととらえられ、生涯学習の基礎を培う役割を担っていると捉えられる。特にその基礎の中でも、教育基本法第6条でも挙げられている自主的、主体的に学習に取り組む意欲・態度の育成が重視されているとみることができる。

さらに、これらの方向性が具体化されている学習指導要領をみると、高等学校の場合には第1章総則の何か所かに主体的に学習に取り組む態度の育成に関わる記述がある（以下、該当箇所の抜粋、下線は筆者による）¹⁾。

第1章 総則

第1款 教育課程編成の一般方針

1 各学校においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの章以下の示すところに従い、生徒の人間としての調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態、課程や学科の特色、生徒の心身の発達の段階及び特性等を十分考慮して、適切な教育課程を編成するものとし、これらに掲げる目標を達成するよう教育を行うものとする。

学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、生徒に生きる力を育むことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的な学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際、生徒の発達の段階を考慮して、生徒の言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。

第2款 各教科・科目及び単位数等

5 学校設定教科

(2) 学校においては、学校設定教科に関する科目として「産業社会と人間」を設けることができる。この科目の目標、内容、単位数等を各学校において定めるに当たっては、産業社会における自己の在り方生き方について考えさせ、社会に積極的に関与し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を養うとともに、生徒の主体的な各教科・科目の選択に資するよう、就業体験等の体験的な学習や調査・研究などを通して、次のような事項について指導することに配慮するものとする。（以下略）

第5款 教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項

5 教育課程の実施等に当たって配慮すべき事項

(10) 各教科・科目等の指導に当たっては、生徒が情報モラルを身に付け、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切かつ実践的、主体的に活用できるようにするための学習活動を充実するとともに、これらの情報手段を加え視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること。

(11) 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。

(13) 生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については～（以下略）

学習指導要領の各教科についての記述においては、教科によって時折自主的な学習について言及する部分があるが、総じてそう多いわけではない。一方で、総合的な学習の時間に関する記述では、この時間の設置経緯もあって、主体的な態度の育成がまずもってうたわれている。

3. 生涯学習社会における「学び」とは

このように、学校教育では、生涯にわたる学習の基盤として、いわゆる「生きる力」を挙げ、その中でも自主的、主体的に学習に取り組む意欲・態度の育成が重視されているが、実際、生涯にわたって「学ぶ」とはどのような状態をいうのであろうか。

生涯学習における「学習」とは「意図的に行われる活動の中で生じる意識、考え方や行動の仕方の変化、あるいはその過程」²⁾をいう。意識や考え方の変化には、「新たな知識を獲得すること、考えが変わること、さらには考える道筋が変わることなども含まれる。」³⁾行動の仕方の変化とは、生活の中のいろいろな行動の仕方が変わることという。あまり運動しない人が「健康のためには毎日の運動が大切である」という話を聞き、毎日30分歩くようになった場合は、これに当てはまる。

さらに、生涯にわたるこのような学習は、様々な方法・形態、内容のものを示すことになる。すでにこの点について、1990（平成2）年の中央教育審議会答申では、以下のように述べられている。

今後生涯学習を推進するに当たり特に次の点に留意する必要がある。

- ① 生涯学習は、生活の向上、職業上の能力の向上や、自己の充実を目指し、各人が自発的意思に基づいて行うことを基本とするものであること。
- ② 生涯学習は必要に応じ、可能な限り自己に適した手段及び方法を自ら選びながら生涯を通じて行うものであること。
- ③ 生涯学習は、学校や社会の中で意図的、組織的な学習活動として行われるだけでなく、人々のスポーツ活動、文化活動、趣味、レクリエーション活動、ボランティア活動の中でも行われるものであること。

①から③をみると、①・②より、生涯学習は自己の向上や充実を目指して自発的・主体的に行われるものである、といえる。また、②・③より、生涯学習は、方法も内容も多岐にわたることがわかる。学習を主眼に置く活動ではなくても、その活動の中で結果として学ぶことも学習としている。活動を通して体験的に学ぶことも勿論学習として捉えている。

大学卒業後も、学生に持っていてほしい「学習」のイメージ、すなわち「学び」のイメージは、ここに述べてきたような、生涯にわたって行われる学習の様相である。その特徴は、以下の点にまとめられる。

- (1) 意識、考え方、行動の仕方が変化したか、変化しようとしているか。
- (2) 生活や能力の向上や充実を目指して行われているか。

- (3) 自発的、主体的に取り組まれているか。
- (4) 学習内容や方法が多岐にわたり、かついろいろな活動や体験を含むことを想定しているか。

この章の冒頭に述べた学校教育でとらえている「生涯にわたる学習の基盤」としての自主的、主体的に学習に取り組む意欲・態度に加えて、学習そのもののありようにも学校教育における学習とやや違うところがあり、そこが特徴として挙げられる。

実際、現在の大学生の「学び」のイメージを、この上記の4点から考察するとどのような傾向にあると分析できるであろうか。

4. 大学生の「学び」のイメージの分析

今回は、本学1年生の必修科目である「基礎ゼミ」において、各教員が行うプレゼミの時間を使い、「学び」のイメージを自由回答で尋ね、その回答の分析を行った。入学間もない1年生が有する「学び」のイメージ、すなわち高等学校までにはぐくまれた「学び」のイメージの分析ということになる。有効となった回答は108通であった（113名分回収、うち5名分は無記入のため無効）。

まず、2. で指摘した生涯学習の4点の特徴それぞれからの分析結果は、以下のとおりである。

(1) 意識、考え方、行動の仕方が変化したか、変化しようとしているか。

「学び」のイメージの記述では、「知らない事を知る、勉強する」、「知る」という表現をそれぞれ7～8名が使用していた。また、「知識」を得る、獲得するというイメージも15名が抱いていた。意識、考え方の変化を「新たな知識を獲得すること」ととらえることは、広くイメージされているといえる。「知る」ことをさらに深めたイメージとして、「理解する」「体（脳）に取り入れる」をそれぞれ7～8名が、「考えている」「何かを得る」「身につける」をそれぞれ1～2名が挙げていた。学習を「意識、考え方、行動が変わること」とイメージすることをできる者もいるといえる。一方で、「覚える」という表現を使う者も6名ほどいた。「覚える」は広辞苑によれば「学んで知る。教えられて習得する。忘れずに心にとどめる。記憶する」などの意味がある。この中の「記憶」の意味が強い場合、その記憶が知識を「獲得した」レベルまでの記憶になっているかどうかで、ここで特徴として挙げた「変化」としての「学び」のイメージを、的確にとらえているかどうか別れるところである。知識を獲得するには程遠く、単に暗記的な「記憶」のイメージも強いのではないかと推測できる。

(2) 生活や能力の向上や充実を目指して行われているか。

今回、「学び」のイメージを尋ねたせいか、このような目標的なことを挙げる者は少なかったが、「成長するのに必要なこと」「人生で役に立つ」（各々2名）、「自分の可能性を探る」「人間をより人間らしくする行為」「人生でとても大切」（各々1名）という表現をする者も存在した。学習を人生の中で有用かつ重要なものと考えているのである。ただし、残念なことに、学習は「ムリ」「苦手なことに取り組む、好きなことはあまり学ぶイメージがない」という表現もそれぞれ1名ずつあった。学習の価値・意味を見出す以前に、マ

イナスのイメージを有してしまっている者もいる表れである。

(3) 自発的、主体的に取り組まれているか。

この点については、「自分から」興味のあることを調べること、「自分で」考えること等、「自分から、自分で」取り組むイメージを挙げた者が19名、「興味があること」や「知りたいこと」を調べるイメージを挙げた者が11名、合計で30名に上った。これは回答者の約28%を占めており、学習において、自発的・主体的であることは比較的広く認識されているととらえられる。ところが同時に、学びを「話を聞く」「授業を受ける」「教えてもらう」というどちらかといえば受け身のなものとしてイメージする者も、回答者の25%を占める27名存在した。学びを主体的なものとしてとらえるか、受動的なものとしてとらえるかは、そのどちらかの二極化の傾向にあるといえる。

(4) 学習内容や方法が多岐にわたり、かついろいろな活動や体験を含むことを想定しているか。

学習内容については、「社会性」「社会への準備」「人間関係」を挙げる者もそれぞれ1名ずついたが、すでに(1)で述べたように、「知識」を挙げる者が多くいたことから、学校教育の中心となる知的な教育、いわゆる「知育」に関する内容をイメージする場合の多いことが明らかとなった。なお、回答では「勉強する」という表現も10名あった。「勉強する」とは「学ぶ」とほぼ同義だが、これも学校での勉強のイメージをだぶらせているようにもとらえられる。

学習方法の面では、「経験」「体験」「行動」を通して学ぶ、という活動的なイメージを9名の者が挙げたが、一方で「椅子に座って」「机に向かって」学ぶ、という体を使わずにどちらかといえば受け身の形のイメージを挙げる者も7名いた。また、学びのイメージの中に、先生などの自分以外の他人を挙げる者が、回答者の約2割にあたる22名に上った。

実際の生涯学習においては、その学習内容は、決して知的なものだけではなく、徳育や体育に関わるものなど、実にバラエティに富んでいる。最近では健康ブームにあわせ、ランニングやウォーキングなどスポーツに励む人や、自然災害の被災地を訪れ、復興ボランティアを通して福祉の心を学ぶ人など、多数存在する。また、学習方法も、各学習者の生活にあわせて多岐にわたり、他人とは会わずに1人で学ぶ、個人学習のスタイルを取る人も多い。図書館や通信教育など、個人学習のための施設や仕組みも数多く存在する。しかしながら、小学校・中学校・高等学校と学校教育を受け続けてきた大学生にとっては、その記憶が強いのか、特に学習内容や方法に関する「学び」のイメージは、従来の学校教育のイメージに重なるところが多いように思われる。

次に、これらの傾向を前述の学校教育法第30条の2に示されている、いわゆる「生きる力」の内容と照らし合わせてみる。生涯にわたり学習する基盤としての第1点目「基礎的な知識及び技法の習得」に関しては、すでに述べたように「知識」を学ぶイメージが多く挙げられることから、学校教育においてかなり意識して行われていることが予測できる。次に第2点目「これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむ」点に関しては、学ぶとは「考える」イメージである者が10名ほど

はいることから、そのような能力を養成する学びが学校教育で少なからず行われていることは推測できる。そして、生涯学習の基盤として最も強調されている「主体的に学習委取り組み態度を養う」点に関しては、すでに指摘したように、学びを「自分から」取り組むイメージである者が19名いるのに対して、「聞く」「教えてもらう」といった受け身なイメージの者が27名存在した。学校では、児童・生徒が主体的に取り組む学習が行われている一方で、やはり児童・生徒が受け身がちになってしまう一方的な知識伝達型の学習が多く存在することが予想できる。

以上の大学生の「学び」のイメージ分析からは、現時点での学校教育は、生涯学習の中に位置づけられ、生涯にわたって学ぶために必要な自主的、主体的に学習に取り組む意欲・態度を育成するよう求められ、そのような教育も行われてはいるものの、まだ十分ではない現状を推測することができた。

5. おわりに

国際的にも変化の激しい現代にあっては、いろいろな意味で生涯にわたって学び続けることはますます重要なことになっていくであろう。何か問題が発生した時に、前向きに解決しようと「学ぶ」人々を増やすために、「学び」についての的確なイメージを持ち、自ら「学び」に取り組む教育はより積極的に行われる必要があると考える。

静岡県内では、学力問題が県民の注目を引いているが、学習状況調査の結果では、教科への学習意欲とその教科の理解度の相関関係も見えて取ることができるようである⁴⁾。今回の調査では、「国語が好きか」に「当てはまる」と答えた小6の県全体の割合は16.9%（全国46位、平均値より6%低い）であり、同時に「国語の授業がよく分かる」は25.8%（全国47位、平均より7.6%低い）であった。この調査では、学習意欲が高ければ、その教科は「好き」ということになる、として教科の好き嫌いを設問に挙げているようであるが、調査結果からは学習意欲は学習の理解度を上げ、逆に学習の理解度が上がれば、学習意欲も高くなるという相関関係にあることが読み取れるであろう。学力問題もこのような学習意欲の点に注目し、さらに子供の将来を見通した「学び」の課題を追究してほしいものである。また、大学教育においても、PBLに代表されるような学習方法も取り入れ、常に学ぶ姿勢を有する学生の育成に取り組む必要があると思われる。

今回は、生涯学習からみた学校教育の課題を、試行的に学生の「学び」のイメージ分析から考察したが、研究方法としては不備の多いものであった。特に、先行研究の検討、分析枠組みの精緻化を十分行う必要があると考えている。これらの研究上の課題を克服し、より多くの人々に前向きな「学び」のイメージが伝えられ、生涯学習社会が実現するよう貢献していきたい。

注

- 1) 文部科学省『高等学校学習指導要領』平成21年3月告示、pp15～24より
- 2) 浅井経子編著『生涯学習概論』理想社、平成25年、P13
- 3) 同上
- 4) 静岡新聞「静岡の学力 学習意欲は授業から」、平成26年9月22日(月)朝刊、p1

巻末資料：「学ぶ」と聞いた時のイメージを表現しなさい。」への回答

※平成26年度前期・1年生対象「基礎ゼミ」のプレゼミにて調査

- 1) さまざまな知識を自分のものにする。人生の中でとても大切なこと。
- 2) 世の中で必要な知識をイスに座って勉強すること。
- 3) 前に立っている人の話を聞いている。
- 4) 自分の力・知識を高める。
- 5) いろんな経験を集める。
- 6) 知識を得て、それについて自分で考えること。話を聞いて理解する。
- 7) 勉強する。いろいろなことを体験する。
- 8) 人から話を聞くこと。自分から興味のあることを調べる。
- 9) 自分から知りたいことを調べて知り、自分のためになる。
- 10) 書いて、聞いて、見て、覚える。
- 11) 勉強している。
- 12) ノートを取り、覚えようとする。
- 13) 社会性を身に付けるために学ぶ。
- 14) 机に向かって一心不乱に本を読み、字を書く。
- 15) 勉強すること。
- 16) 自分が知らない知識を蓄える。
- 17) むり
- 18) 教えてもらったことを理解すること。
- 19) 常に考えている状態
- 20) 先生が教えてくれたことに自分の意見や考えをぶつけること。
- 21) 書き写すだけでなく、自分で考えて答えを出す。
- 22) 努力する。
- 23) 先生と生徒の立場で、生徒が先生から情報をもらうこと。
- 24) 想像する力や考える力を身につけるため。
- 25) 理解し、頭の中にとどめ、利用できるようにする。
- 26) 人の話を聞く、人に何かを教えてもらう。
- 27) その人が気になることを調べて知ること、また、それを覚えて活用すること。
- 28) 授業を受ける。
- 29) 相手から情報を得る、教わる。
- 30) 効率の良い不慣れなことの習得、のちのち役に立つことを習得し、それを活かす力を身につけること。
- 31) 勉強する。
- 32) 話を聞いたり、勉強したりしている状態
- 33) 人の話をよく聞き、それを自ら行動し、自分の経験にすること。
- 34) 授業を受けている時
- 35) 脳に知識を自分から取り入れようとしている状態
- 36) 読み書きをする、実験などの行動で覚えようとする、知りたくて調べる。

- 37) 頭に入れる。この自分に役立つ知識をからだに取り入れている感じ。
- 38) 自分から知識を得ようとする人
- 39) 勉強している人、人の話を聞いている人
- 40) 授業で話を真剣に聞いている時。
- 41) 机に座り、知らないことや体験したことの無いものを学ぶこと
- 42) わからないことを知識として取り込むこと。
- 43) ものごとを考えて理解すること。
- 44) 実際に体験する。集中して何かをおぼえる。やりたいことを学ぶ。
- 45) 集中して、知識を身につける。
- 46) 人から聞いたり、自分で見たものから自分の考えを生み出して、それを日々の何気ない生活で生かせること
- 47) 自分からノートを取ったり話を聞いたり、自分の身につけること。
- 48) 自分が分からなかったときを知ったとき、もしくは、他の人からのアドバイス、などといったとき
- 49) その人から多くの知恵をいただいているとき、教授の考えを知る。
- 50) 勉強する。
- 51) 脳の筋トレ。人間をより人間らしくする行為。
- 52) 学校、塾、机、勉強
- 53) 自分に役立つことを身に付けるとき、自分の知らなかったことを知ったとき
- 54) 先生の話聞いて、その問題を一緒に解いていったり、その問題はあなたはどう思いますかと自分で考えて答えていくこと。
- 55) 語学や数学の勉学はもちろん、生きていくという意味。勉学だけではなく、人間関係などいろいろある。
- 56) 自分の知らない物事を初めて知った時。
- 57) 教えてもらったことを自分の中にしっかり入れ、何かで使える時
- 58) 知識と知識をつなげること
- 59) 自分にとって大切なことが知識として頭の中に残っているとき。問題を考え答えを導くための順路。
- 60) 社会に進んでいくための準備、自分の可能性を探る行動
- 61) 様々なことを情報を取り入れて知る、頭の中で知識の材料としておさえる。
- 62) 知る。体験する。
- 63) 自分が知らないことを勉強している時
- 64) 自分の知らない事や物を教えてもらっている時、興味のあるものを勉強して実感がわいている時
- 65) 例えばスポーツなら、うまい人のプレーを見て、自分のものにしようと頑張ること。
- 66) 生きる事
- 67) 経験の積み重ね
- 68) 生きていく上で師の口から伝わって頭に入れようとする。経験上で身に付ける技術のこと。
- 69) 自分から何かの知識を吸収しようとする。受け身ではなくて自分からいくもの。

- 70) 知らないことを教えてもらっている時とか。
- 71) 新しいことを知ること。何かができるようになるためにすること。成長するのに必要なもの。時間がかかること。無意識にしてしまうこと。
- 72) 「学」が付いた授業は難しい。「学」は専門的に何かの勉強をする。
- 73) 自分が成長している時。知識などを自分のものにした時。
- 74) 自分が持っていない知識などを学ぶことから得る。
- 75) 物事を考えてその答えに辿りつくこと。知らなかったことや初めて聞いたことを人から聞いたりしてその意味を知る。
- 76) 興味のあること、ないことを学ぶ時の意欲の差が激しすぎる。人生の道路を作る。
- 77) 書く。話す。
- 78) 自分の知りたいことややりたいこと、自分に必要なことを教えてもらう。物や事柄の伝統を受け継ぐこと。
- 79) 学んだ内容を覚えるだけでなくそれを理解して、それを応用することができたり、もっと深い部分まで調べたりするようにすること。
- 80) 教えてくれる人の話を聞く。
- 81) 興味があることを知ろうとすること。
- 82) 人から新しい情報をもたらす。人と話し合う。自分で見つけ考える。本を読む。聞く。
- 83) 自分の知らない事、知りたい事を追求していくこと。
- 84) 知らないことを知る。
- 85) 知識を得る。感覚をなじませる。体験をする。訓練をする。
- 86) 聞く。書く。
- 87) 日常生活すべて。知る。
- 88) 話を聞く。問題を解く。
- 89) 見る。聞く。書く。考える。(絵で表現)
- 90) 人によるが書いたり聞いて対象を覚えようとする。
- 91) 今まで持っていなかった知識を得たり、理解できていなかったことを理解すること。
- 92) 難しい本を読む。(絵で表現)
- 93) 自分の知らないことを知ろうとすること。
- 94) 身に付ける。出来ないことが出来る。失敗を繰り返す。
- 95) 知識のある人から知識を伝えてもらい、その知識を活かす事。
- 96) 何かを得ること。
- 97) 話を聞いてノートに書いている。
- 98) 学校にきて勉強する。塾に通う。
- 99) 学ぶ時に教えられる業を受ける。
- 100) 集中している。
- 101) 本などいろいろなものをみたり聞いたりして、覚えて吸収していくこと。
- 102) 様々な知識を取り入れること。
- 103) ノートと筆記用具 (絵で表現)
- 104) 人と人がそれぞれに助け合い、同じ目標を持ち、向かっていく事。
- 105) 学校。受験会場。

学校教育ではぐくまれる「学び」のイメージに関する考察

- 106) 自分の苦手なことをがんばって考えたり覚えたりすること。好きなことはあまり学ぶイメージがないので、遊びの一環として好きなことはできる。
- 107) 机に向かう。(絵で表現)
- 108) 話してもらうことをうなずきながら聞く。(絵で表現)